

4日と7日から思うこと

なにごとにも流行廃りがある。一昔前、東松山のスリーデーズ・マーチがブレイクしたとき、各地でツーデーズ・マーチとかナントカ・マーチが開催された。それがいつしか下火になったなど思っていたら、トレイル・ランが大ブレイクしている。世界遺産もある所が認定されると、わあっとそこに人が集まり、別の所が新たに認定されると、わあっとそっちに人が移って、前の所は静けさを取り戻す。

山や自然も似たような状況下にあるように思えてならない。2月4日に荒崎シーサイドウォークを楽しんできた。真冬のウィークデーだから人影がない。それ自体は不思議ではないのだが、コースが寂れているという感じを抱いた。ガイドブックには、「その名のとおり、荒波に砕かれた岩礁地帯が続く景勝地。海岸線を磯伝いに歩くハイキングコースが整備されている」とある、変化に富んだいいコースであった。

コースが整備されたのは何年前のことになるのだろうか？ 当時は大人気のコースであったことを示す、立派な手摺りや橋の名残りがあった。現在では破損して赤さびが浮いていたり、橋板が落ちて「危険」という張り紙があったり、寂れた空気が漂っていた。テレビで取り上げられたら、わあっと観光客が押し寄せること請け合いのいいコース、というのはご一緒した皆さん共通の感想であった。

7日、沼津アルプスを歩いてきた。沼津駅のバス停に行ってみる。バスの経路案内にどこそこ口はどこそこのバス停で下車というふうに、沼津アルプスがしっかり案内されているのだ。なんとかというバス亭にはトイレがあり、ちかくにコンビニもあったといった具合に親切きわまりない。いまや大人気コースであることが、裏付けられている。昔々は地元の山好きが誘い合ってハイキングを楽しんだり、夏山のトレーニングに歩いていた裏山に過ぎなかったのが、時代にマッチしたのか、いまや日本中から登山者が訪れる。

昔は徳倉山から鷲津山にむかう人がほとんどで、逆コースを歩く人は見かけなかった。今回は順逆（南北）コース共、同じくらいの人数が歩いて入る。小鷲津山の登りにかかると、降りてくるパーティとすれ違う。登り優先だから、彼らに道を譲ってもらうのだが、「こんな大変な所、登る気がしないね」という会話が耳に入る。山岳会に入っていれば、大変な所を登りに採り易い所を下りに採ると、登山の基本を教えられるが、山岳会を敬遠しネット情報に頼ってプランすると、「小鷲津山を登ってくる奴の気が知れない。下りに採れば楽」という書き込みを真に受けて、鷲津山から徳倉山にむかうようにプランすることになるのだろう。

登り優先を知らないのか、ガンガン下ってくる登山者も増えている。根は共通しているように思えてならない。ストップ、ネット情報、なあんちゃって…。